

報道関係者 各位

2026.5.8
< 配信枚数 2 枚 >

■開催案内■

立命館土曜講座 2026 年 6 月テーマ

庭園と廃墟の美学—写真集に視る〈場所・時間・感情〉の交錯

開催日程 : 2026 年 6 月 6 日 (土)・13 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

開催方法 : ハイブリッド講座 (末川記念会館・Zoom ウェビナー)

2026 年 6 月の立命館土曜講座は、立命館大学アート・リサーチセンターの企画として、ハイブリッド形式(末川記念会館・Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 2026 年 6 月テーマ

「庭園と廃墟の美学—写真集に視る〈場所・時間・感情〉の交錯」

(1)庭園とメランコリー 現代のイギリス写真における「庭」という主題

日時 : 2026 年 6 月 6 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 : 立命館大学先端総合学術研究科 教授 竹中 悠美

(2)廃墟とノスタルジア 1980 年代以降の日本における廃墟写真集を中心に

日時 : 2026 年 6 月 13 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 : 立命館大学産業社会学部 教授 住田 翔子

開催方法 : ハイブリッド講座(末川記念会館・Zoom ウェビナー)

内 容 : 別紙参照

聴 講 料 : 無料

定 員 : 末川記念会館 180 人、Zoom ウェビナー400 人

※実施前日 12 時 00 分までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法 : 立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

主 催 : 立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他 : 文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先:京都大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:尾崎・堀

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 2026年6月テーマ

「庭園と廃墟の美学—写真集に視る〈場所・時間・感情〉の交錯」

(1)庭園とメランコリー 現代のイギリス写真における「庭」という主題

日時：2026年6月6日(土) 10時00分～11時30分

講師：立命館大学先端総合学術研究科 教授 竹中 悠美

講師による内容紹介：

英国式庭園という様式で知られているように、庭はイギリスを代表する文化のひとつであり、暮らしに深く根ざした身近な空間です。庭園の散策やガーデニングを楽しむだけでなく、庭は文学や絵画の中で繰り返し描かれてきました。美しい庭園の写真も目にすることが多い中、近年、庭を主題とした写真展や写真集の出版がイギリスで相次いでいます。そこに共通するのは、プライベートな庭に漂う特別な気配を、感情と思考を含めて表現していることではないでしょうか。

この講座では、その写真集の中から7人の写真家がひとつの庭を撮影した『Picture from the garden』(2023)と、1人の写真家が自宅の庭に集う人びとを撮影した『The Garden』(2024)を取りあげます。そして、庭という場所が喚起するさまざまな感情の中からメランコリーに注目し、「自然が映し出す時間」と「写真の本質的な特性として論じられてきた時間性」に照らし合わせながら、庭を主題とする今日の写真について考えます。

(2)廃墟とノスタルジア 1980年代以降の日本における廃墟写真集を中心に

日時：2026年6月13日(土) 10時00分～11時30分

講師：立命館大学産業社会学部 教授 住田 翔子

講師による内容紹介：

廃墟は、文字通り打ち捨てられた、機能を失った建物であることから、否定的な印象を抱く人も少なくないでしょう。日本において街なかで廃墟を見かけることが多くなるのは1970年代以降のことですが、当初廃墟は価値のないものと考えられていました。

しかし1980年代以降、写真家たちが廃墟を訪れ写真を撮り、写真集を発表し始めます。このような「廃墟ブーム」はその後も続き、2000年代以降、より若い写真家たちが廃墟の写真集を刊行します。これら写真集をめくると、写真家にとって廃墟はまずノスタルジックな感情を喚起させるものであったと理解することができます。同時に、廃墟を写真に収めることに対する写真家のさまざまな表現も垣間見られます。

この講座では、廃墟の写真集である雑賀雄二『軍艦島—棄てられた島の風景』(1986)、丸田祥三『棄景—廃墟への旅』(1993)、三五繭夢『廃墟ノスタルジア』(2003)、星野藍『幽玄廃墟』(2017)を中心に取り上げ、廃墟を撮影し写真集として出版することの個人的および社会・文化的背景について読み解いていきたいと思ひます。

■立命館土曜講座 <WEB サイト> <https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。